

景観まちづくり委員会



委員長
出堀 義夫

感染拡大防止のため、市町村の視察や訪問を避けたこともあり、目立った委員会活動はできなかった一年でした。昨年度の四街道市の景観まちづくり委員の派遣を契機に、今年度は景観まちづくりアドバイザーの派遣など具体的な事案を増やしていきたいと考えます。

既定の指針分野で、全国で少しづつ町おこし・街並み景観づくりの事例も報告されており、千葉県の中で個々の市町村での隠れた資源を発見し、できることから進めていきます。行政担当者・景観に関する大学関係者・郷土史愛好家などのいろいろな異種の才能とのコラボレーションが必要となります。



千葉市緑区のNPO法人DROPSの見学風景

その中で建築士としての立場で発言していくことが求められます。建築士としての高い倫理感のもとで継続できることが大事になります。ものづくりが大好きで課題を客観的に整理しイメージを構築し表現していける能力は建築士が持てる最大の武器となるはずです。複数の専門家がかかわるプロジェクトの中での10年かけての景観まちづくりアドバイザーとしての「信用」の構築のスタートにしたいと思います。

